

★本田の作業の始まりです。気象庁のヶ月予報では、今後の**気温は平年並み～やや高い予報となっています。**
浸漬期間が例年に比べ短くなる可能性もありますので、発芽の状況や、水の入れ替えを行い、気象変動に負けない強い苗づくりに努めましょう。
田植えに向けて計画的に作業をしましょう。

育苗管理


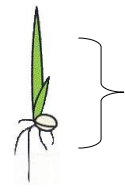
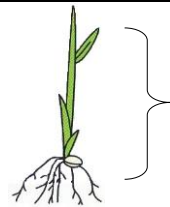
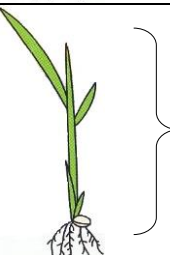
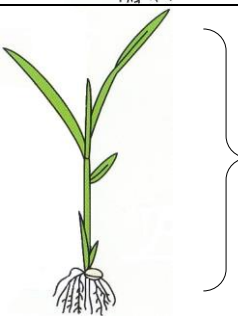
ポイント☞ 育苗期間を通じて温度を上げすぎず、水を控えめにすると丈夫な苗ができます。

箱土の水分 { 乾燥 → 出芽が不揃いになる、生育が遅れる。
 過湿 → 芽が出にくい、クモの巢カビ病が発生しやすくなる。

～降霜・低温対策～

ハウス育苗：シルバーポリトウなどの被覆資材で苗を被覆する。

折衷苗代：被覆資材を2重にしたり、育苗箱の肩の高さまで灌水する。

日数(日)	区分	苗姿	温度		内容
			日中	夜間	
0~5	出芽期		35℃以下	10℃以上	○ シルバーポリトウなどの平張り被覆は8割程度の出芽を確認したら取り除きましょう。 ※ 全て芽が出揃うまで待っていると、伸びすぎてしまい、ひよろひよろした弱い苗になってしまいます。 ○ 乾燥していて出芽しない場合は、被覆をはずして灌水を十分行いましょう。
5~12	1.5葉期	 2.5cm	30℃前後	5℃以上	○ 日中30℃以上の高温にならないよう、換気を行いましょう。 ○ 水管理は、過湿にならないよう注意し、灌水は朝方に行いましょう。
12~24	1.5~3.0葉期	 7cm	25℃前後	5℃以上	○ 灌水は箱土の水分を確かめ、苗の葉先が巻き始めたころ、朝方にたっぷり行いましょう。 ○ 育苗箱への追肥は、葉色が淡くなった場合に硫酸を1箱当たり現物で5gを500ccの水に溶かして灌注します。朝または夕方の灌水前に散布し、追肥後必ず水洗いし、葉焼けを防ぎましょう。
24~30		 11cm			
30~35	3.0~3.5葉期	 15cm	20℃前後	5℃以上	○ 霜の降りるとき以外は外気に慣らして、硬く丈夫な苗に育てましょう。 ○ 田植えの5日位前から日中全面開放し、夜間は上部のみを被覆し両裾は開きましょう。

本田作業

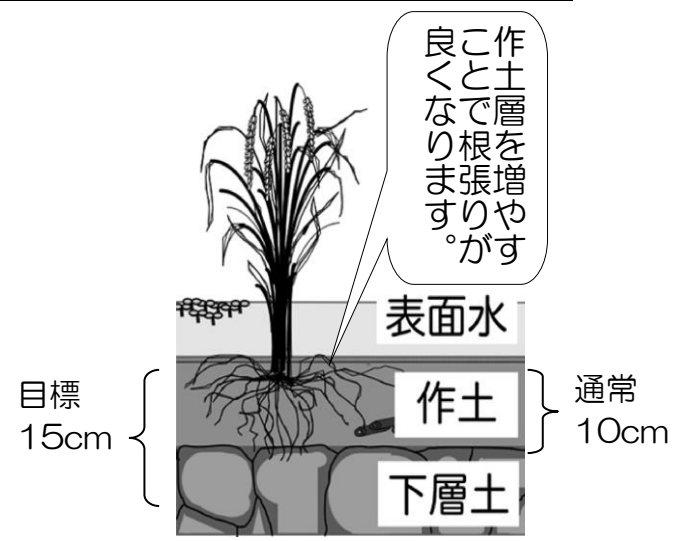
耕起～施肥

- ①耕起は深さ15cmを目標に行い、根が良く張っていける環境をつくりましょう。
- ②ケイ酸質資材を積極的に使用しましょう。
- ③施肥量が多いと倒伏や病気の発生につながります。適正な施肥量を心がけましょう。

	品名	タイプ	1袋当りの成分			袋数(10a)
			N	P	K	はれわたり・まっしぐら
土壌改良材	混合リン肥 新3号	化成	—	—	—	5~10
基肥	つがるロマン	有機	2.0	3.0	2.0	3.5
	有機化成エコ米	有機	2.0	2.4	1.2	3.5
	マップ264号	化成	2.4	3.2	2.8	2.9
全量基肥	ニューてまいらず	化成	2.0	4.0	2.8	4.5
	水稲春一発	化成	2.0	2.0	2.0	4.5
	一発あど楽	化成	4.0	3.0	3.0	2.3

田植え

- ・まっしぐら・はれわたりは分けつしにくい(収量の確保が難しい)品種です。水管理とともに坪当たり80株植えを行い、収量確保に努めましょう。
- ・田植えは代枯れの予防や活着促進のため、天気の良い温かい日に行うようにしましょう。



※土壌改良資材(混合リン肥 新3号等)を使用することで食味向上や倒伏軽減につながります。
 ※土質に応じた基肥、生育に応じた追肥をしましょう。